

ストラディヴァリウスの魅惑

文／玉井菜採



ヴァイオリン製作史上に燦然と輝く銘器「ストラディヴァリウス」。17世紀半ばに生まれ、イタリア・ロンバルディア地方のクレモナで活躍したアントニオ・ストラディヴァリが製作した楽器は、内部に貼られたラベルのラテン語銘「Stradivarius」として名声を獲得しました。その謎めいた羨望を誘う名は、実際の音を聴く前から人々を魅惑する力を湛えています。今なお美音の秘密はヴェールに包まれ、300年の時を経た現代の科学をもってしても、解明は困難です。

ストラディヴァリウスの魅力について、ある人は、音の美しさを宝石や真珠に例え、ある人は、オーケストラと共演してもホルの一番後ろの席まで届く音の伸びやかさを称賛します。容姿も美そのもの。「ヴァイオリンの女王」の名にふさわしく、完全に均整のとれたシェイプ、木目や細工、ニス of 美しさ



日本音楽財団が所有するストラディヴァリウス「カンボ・セリーチェ」(1710年製)9月24日公演に出演するM.ドゥエニャスに貸与されている。

は格別、名工の手が生み出した作品だけでももつ趣と気品、佇まいを後世に伝えます。美術品としても蒐集家を虜にしています。

しかし、よくお正月のテレビ番組などで、多くの芸能人や視聴者がストラディヴァリウスと他の楽器の聴き比べに失敗することからも分かるように、演奏場所や演奏者あるいは楽器自体のコンディションなど、さまざまな条件で「音」の聞こえ方は変わります。ストラディヴァリウス以外にも、もちろん新作にも、音の美しい楽器はたくさんあり、抽象的な言葉でしか表現できない「音」というものの感じ方は、意外と不確かな面もあるかもしれません。

演奏家にとつては、楽器は「相棒」。もはや道具ではなく、人格さえ感じるものです。過去の名匠から現代の製作者まで、作り出された楽器は、タイプも性格も千差万別です。健康的にストレートに反応するもの、繊細で相手を選ぶもの、天真爛漫なおてんば娘、気難しくも含蓄ある賢者、雄弁で力強いカリスマ、協調性があり他の楽器と響き合う、などなど、

まるで人間のようにキャラクターは多彩です。そして素晴らしい楽器ほど、その能力を引き出す演奏者の実力が問われます。F1レース用の車をだれもが乗りこなせないように、名器ほど実は演奏するのが難しい面もあります。演奏者が一方的に自分の要求を楽器にぶつけても、楽器は必ずしも応えてくれないのです。楽器にもプライドがあるのでは、と感じることもあります。楽器と演奏者の実力が釣り合い、相性がよく、コミュニケーションがうまくとれて、はじめて共同作業がスタートします。いい音が立ちあがるポイントを探し、音色を生み出すさまざまな条件の掛け合わせ(例えば弓の圧力や速さ、駒からの距離や、ヴィブラートのコンピネーションなどを吟味し、楽器の声に耳を傾け、楽器が応えてくれる限界ぎりぎりの挑戦を続けます。

人はなぜ楽器を弾くのでしょうか。純粹に楽器を弾く楽しみ、音楽を奏でる喜び、そして音を通して音楽を共有する喜び。演奏家が名器を演奏したい(名器と格闘したい)と望むのは、ただ単に美音を求めるのではなく、その音楽の中に、何としてでも表現したいことがあるからです。

クラシック音楽では、作曲家が残した芸術作品を、音で眼前に立ち現すのが演奏家の使命です。作曲家が望んだ音、求めた響きを、自らの魂を賭して表現するために、この瞬間、この音色、表現の最後の最後の部分、そこに貪欲であるがゆえ、演奏家はそ

れに伝えてくれる楽器を求めているのです。それは、本当に例えようもないような音色であつたり、かすかな、気づかれないほどの精妙なニュアンスであつたりするのでしょう。しかし表現者として、至高の音楽作品の中で、届かないかもしれない高みに手を伸ばそうとするとき、ストラディヴァリウスほど応えてくれる同伴者はいないと思えるのです。

玉井菜採 (たまいなつみ)

紀尾井ホール室内管弦楽団コンサートマスター、東京藝術大学音楽学部教授。1998年、フォーバルスカラシップ・ストラディヴァリウス・コンクールで第1位を獲得し、「レインヴィル」(1997年製)を2年間無償貸与され、2003年から現在は東京藝術大学所蔵のストラディヴァリウス「エクス・パーク」(ex-Park)(1717年製)を使用している。

ストラディヴァリウス・コンサート2023

【出演者】

キム・スーヤン、マリア・ドゥエニャス(ヴァイオリン)
パブロ・フェランデス(チェロ)、江口 玲(ピアノ)

9/24
14:00

【曲目】

ラフマニノフ : ヴォカリーズ op.34-14
ベートーヴェン : ピアノ三重奏曲第4番変ロ長調 op.11《街の歌》
ラヴェル : ツィガーヌ
ベートーヴェン : ヴァイオリン・ソナタ第5番へ長調 op.24《春》～第1楽章
チャイコフスキー : ピアノ三重奏曲短調《偉大な芸術家の思い出に》
op.50～第1楽章
ショスタコーヴィチ : 2つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品
コルンゴルト : 2つのヴァイオリン、チェロ、左手のためのピアノによる組曲
op.23～第2楽章、第3楽章

主催:日本音楽財団/日本製鉄文化財団 助成:日本財団

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。